



おだ かつひさ PRESS



〒216-0003
川崎市宮前区有馬6-6-1 五十嵐ハイツ102号
TEL & FAX: 044-856-5456
E-mail: oda@odakatau.com
URL http://odakatsu.com/

連絡先



川崎市議会 副議長(宮前区)
おだ かつひさ

コロナ禍を鷺沼再開発事業を深化する好機に 地域生活拠点としての利便性の向上を追求

2020年8月に国は新型コロナウイルス危機を契機としたまちづくりの方向性を示し、従来のまちづくりに「コロナなどの感染症」対策を加味することを示しました。これを受けて、再開発準備組合から再開発計画(施設計画や機能)の再検証を行いたい旨の申し入れが市にあり、市の取組方針とスケジュールの見直しが行われました。

◎再検証の見直しの視点

国の「まちづくりの方向性」の要点は、「三つの密」の回避など「ニューノーマル」に対応したまちづくりが必要として

① 職住近接のニーズに対応したまちづくりの推進

② 緑やオープンスペースの柔軟な活用などです。

◎地域生活拠点の深化

市は、本再開発事業を宮前区の地域生活拠点の整備」と位置付けています。地域生活拠点とは、市民の必要とする「官・民サービス」をワンストップで提供できる受け皿の拠点と言い換えることができます。すでに準備組合からは、駅の隣接地域に

子育て支援等の整備方針が示されています。これに区役所、市民館、図書館等の公共機能も整備することで、理想的な地域生活拠点」となることを目指しています。今回のコロナ禍で「再検証」が行われたことで、市民の利便性の向上」の視点がさらに深化したと評価しています。

◎再検証の内容も深化

コロナ禍での社会状況の変化を受けて、国からさらに「ニューノーマル」に対応した都市政策のあり方」駅まちデザインの手引き」などが本年になり公表されました。

ライフスタイルに応じた多様な働き方、暮らし方の選択肢の提供」、駅・駅前広場・周辺市街地を「駅まち空間」として一体的に捉え、「駅まち空間」を魅力的なまちづくりの拠点とする」などといった内容ですが、これらの要点も、再検証の内容にさらに加味されています。

◎駅舎の改築も視野に

現在の再開発事業計画では、駅舎の改築の方向性が明らかでありません。これまでも駅舎の改築をおこなって、地下通路ではなく、地上にペDESTリアンデッキなどを整備して市民の駅周辺での回遊性と動線確保することなどを求めてきました。

再検証の結果を受けて、「駅まち空間」の充実の視点から可能性を追求して行きたいと考えています。交通結接駅としてのバス路線の見直し、新設なども課題です。なお、本格的な工事開始は、2024年度になる見込みです。

「駅まち空間」の回避性・機能連携のイメージ



おだかつひさ(織田勝久)プロフィール

- ◆1961年、川崎市幸区生まれ。駒場東邦高校、中央大学 法学部卒業(地方自治、都市政策専攻)
- ◆国会議員秘書を経て、2003年川崎市議会議員初当選。現在5期目。市議会総務委員会委員長、健康福祉委員会委員長、議会運営委員会副委員長、市議会政策担当者会議メンバー、市監査委員等を歴任。みらい川崎市議団元団長、現在、健康福祉委員会委員。2021年5月、第44代川崎市議会副議長に就任。
- ◆ボーイスカウト川崎第54団育成副会長、宮前区少年野球連盟顧問、宮前区ゲートボール協会顧問。原水禁川崎市連事務局長。
- ◆尊敬する人物/ケネディー元アメリカ大統領
- ◆好きな作家/司馬遼太郎、宮城谷昌光 ◆好きな言葉/知行合一
- ◆長男は独立、妻、二男(23才)の3人家族。有馬在住。